



■取り組みの経緯と目的

平成24年度から岡垣町社会福祉協議会と岡垣町が共催し、3年計画で「いこいの里福祉大学」を開催している。講座を通して、住民が「地域包括ケアシステム」を中心とした国の現状や施策、町の現状・課題等“現実”を知り、その現実への備えとして、自治区と民生委員が連携した取り組みが自発的に始まった。その取り組みを岡垣町社会福祉協議会と岡垣町が支援し、高齢者人口がピークに達する約10年先を見据え、全町的な取り組みとして、自治区を活動単位とした見守りを中心とする基礎システムの構築をめざす。

■主催

岡垣町自治区長会
岡垣町民生委員児童委員協議会

■事務局

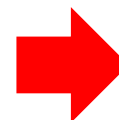
岡垣町 地域づくり課・福祉課
岡垣町社会福祉協議会
(→取り扱い窓口)

■これまでの主な取り組み

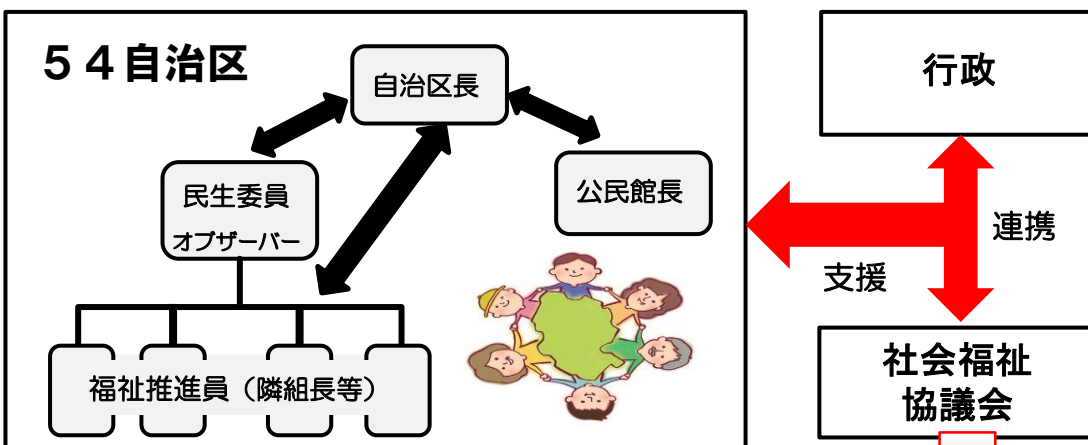
「合同研修会」
取り組みの方向性の決定



5校区での「ブロック会議」
“気になる人”を対象にマップづくり



■取り組みイメージ



■取り組みの方向性

- ◆自治区と民生委員の連携強化
 - 1) 民生委員を自治区の役員（オブザーバー）へ
 - 2) 民生委員と福祉推進員の連携による見守り活動
- ◆自治区内での情報共有

- 効率的・効果的な見守り活動に！
- 地域に“絆”（信頼感・安心感）を！
- あなた自身が安心して暮らせる地域に！



地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例

①市区町村名	岡垣町
②人口（※1）	32,597人 【平成25年4月1日現在】 ()
③高齢化率（※1） （65歳以上、75歳以上それぞれについて記載）	65歳以上：9,061人（27.8%） () 75歳以上：4,628人（14.2%） 【平成25年4月1日現在】
① 取組の概要	<p>岡垣町から孤独死・孤立死を出さないことをめざし、高齢者人口がピークに達する約10年先を見据え、全町的な取組として、自治区を活動単位とし、見守りを中心とする基礎システムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡垣町社会福祉協議会と岡垣町が共催で、平成24年度から3年計画で「いこいの里福祉大学」を開催し、住民が地域包括ケアシステムを中心とした国の現状や施策、町の現状・課題等、現実を知ったことが取組のひとつの契機となった。 ・自治区組織と民生委員が情報を共有し、効率的・効果的な活動をめざす。 ・従来から取り組んでいる小地域福祉ネットワークの延長線上にある活動。
⑤取組の特徴	<p>①いこいの里福祉大学での学びをひとつの契機として、自治区単位（54自治区）での地域福祉活動の中核を担う自治区長、民生委員・児童委員が主体となって自発的に取組を開始した点。</p> <p>②その取組の範囲は一部の地域に限定せず、全町的な取組である点。</p>
⑥開始年度	平成24年度
⑦取組のこれまでの経緯	<p>平成24年10月 合同役員会（第1回）：合同研修会に関する協議 11月 合同研修会（第1回）：アンケートの実施、見守り体制(案)の決定 「出来ることから始める」方針決定</p> <p>平成25年1月 合同役員会（第2回）：ブロック会議に関する協議 2月 合同ブロック会議（第1回）：アンケート集計結果の公表 自治区ごとに福祉マップの作成</p> <p>3月 合同役員会（第3回）：ブロック会議終了後の検証 モデル地区に関する協議</p> <p>6月 合同ブロック会議（第2回）：見守りマップについて モデル地区による発表</p> <p>【合同研修会：全ての自治区を対象に開催、ブロック会議：5つの校区に分かれて開催】</p>
⑧主な利用者とな数	おおむね高齢者全般（約9,000人）
⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織	<p>【実施主体】 岡垣町自治区長会 岡垣町民生委員児童委員協議会</p> <p>【事務局】 岡垣町 福祉課・地域づくり課 岡垣町社会福祉協議会</p>
⑩市区町村の関与（支援等）（※2）	福祉課・地域づくり課が事務局として運営を支援。
⑪国・都道府県の関与（支援等）（※3）	平成25年度福岡県地域支え合い体制づくり事業補助金（921千円）
⑫取組の課題	行政が地域福祉計画を策定し、社協の地域福祉活動計画と両輪となることで、この取組が継続的なものとなるよう支援する体制を作ること。





⑬今後の取組予定	マップを活用した見守りの実践、DVDの制作、シンポジウムの開催
⑭その他	
⑮担当部署及び連絡先	岡垣町（福祉課・地域づくり課） TEL 093-282-1211 岡垣町社会福祉協議会 TEL 093-283-2940

- ※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を（ ）内に記載してください。
- ※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。
- ※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。





いこいの里福祉大学

1) 主旨

我が国は、平成 27 年には団塊の世代が 65 歳を迎える時期にあたり、ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者の増加等、地域の福祉課題や生活課題がこれまで以上に多種多様化することが予測されます。こうした社会情勢の中、今後の地域福祉のあり方として、「たとえ高齢になっても、障がいがあっても、出来る限り住み慣れた地域の中でその人らしい生活を送ることができるように基盤を整備する」という方向性が問われています。

いこいの里福祉大学は、地域で支援を求めている住民に地域が気づき、住民相互で支援活動を行う等、地域住民同士の“絆”を再構築し、「だれもが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせる」地域づくりのために、住民の皆さんと共に意見を出し合い、話し合う場です。また、行政施策と共に歩調を合わせ、行政等とのパートナーシップを図るために、社会福祉協議会の役割を顕在化し、住民の皆様から理解され、信頼される社会福祉協議会をめざすことを目的としています。

2) 方向性

岡垣町は、第5次総合計画の基本理念である「住みたい・住み続けたい・みんなが輝く 元気なまち 岡垣」の実現をめざし、住民との協働による地域づくりを進めていくために、「自分たちの地域は、自分たちが守る」という地域での見守り・支えあい体制の構築を推進しています。

いこいの里福祉大学は3年計画とし、初年度は国の現状・課題およびそれに対する方策等に関する基礎的取り組みについて学び、中間年度では、その課題を岡垣町に置き換え、現状・課題の整理を行います。最終年度には、住民と行政、社会福祉協議会をはじめとする専門機関が連携し、パートナーシップに基づく岡垣町の地域福祉のあり方と社会福祉協議会の役割を明確化することをめざします。

